

第3回

>> Dialogue between Sociology and 'Visuals' <<

“「東京」を観る、「東京」を読む。”展

ーデザインすることと社会学することー



11/20(火)-29(木)

12:00-19:00 入場無料

日本大学文理学部百周年記念館

京王線 / 東急世田谷線下高井戸駅または京王線桜上水駅より徒歩 8 分

展示発表

百周年記念館 1F エントランスホール

異なる視点と方法による2つの展示発表を同一会場でジョイントさせ、モチーフとする「東京」と「東京人」をビジュアルかつ立体的に描き出し、異種交配による「化学反応」を引き起こして、新しい「東京」の読み方を提示する。第3回展は、デザインと社会学とのコラボレーション!

A “東京”を感じる展

千葉大学工学部 / 大学院工学研究科 環境デザイン研究室

B “写真で語る：「東京」の社会学 '07'展

「東京人」観察学会(日本大学文理学部社会学科 後藤ゼミ)

ギャラリートーク

百周年記念館 2F 国際会議場(300席)

歩いて・見て・感じる「東京」ーデザインと社会学との共振ー

清水忠男 千葉大学教授(環境デザイン)

後藤範章 日本大学教授(都市社会学) の対論

11/24 (土) 14:00 - 16:00 (13:30 開場)



主催：日本大学文理学部 共催：千葉大学工学部 / 大学院工学研究科 環境デザイン研究室

後援：日本都市社会学会、世田谷区教育委員会、鶴山市教育委員会、府中市教育委員会、下高井戸商店街振興組合、桜上水商店会

第2回 “「東京」を観る、「東京」を読む。” 展

—建築の表現力と社会学の想像力—

2006年11月21日(火)～30日(木)



展示発表

A “東京駅と丸の内—過去・現在・未来を彩る
建築と都市景観—” 展

建築ジャーナル

B “写真で語る：「東京」の社会学 '06” 展

「東京人」観察学会(社会学科・後藤ゼミ)



来場者数:2,086人

シンポジウム

東京/日本らしさの<<核心>>を照射する
—東京駅と丸の内と皇居と—

日 時:2006年11月26日(日)

参加者:185人



来場者投票による1位作品(385票)の紹介

「食」から「客」へ —マクドナルド化最前線—



全12席の内2人席は8つ、他は全てカウンター席(手前)と個別ブース席(向こう側)。新宿駅周辺のマクドナルド8店舗中ここだけで採用されており、平日はオフィス街に至近であるために慢性的な満席に陥る。2006年12月31日に改装して以降、売上も増加した。

長居を可能にする店舗形態は、一見、効率性・計算可能性・予測可能性・コントロールを原理とする「マクドナルド化(McDonaldization)」(G. リッツァ)に反している様に見える。しかし、2006年10月18日(水)の午前11時～午後5時過ぎに、ここで時間を過ごした230人の滞在時間を調査した結果、2人席の平均40分に対し、個別席は24分であった。個別ブース化すれば居住性の高いプライベートな空間にはなるが、ビジネスマンの一人客が長居する可能性は低く、結果的に回転効率を高めることができる。

遅れだった客を大胆に切り捨てて一人客をメインターゲットとするこの風景は、マクドナルドが「食」の合理化のみならず、「客」を合理的に選別し始めたことを示している。

2005年7月1日(金)8時半頃

マクドナルド新宿サバルビル店内(新宿区西新宿1丁目)にて撮影